

平成21年10月26日

各公民館等関係者の皆様

広島県公民館連合会  
会長 城戸 常太  
(公印省略)

第59回広島県公民館大会の中止について(通知)

当連合会の事業運営につきましては、平素から格別の御理解と御協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、本年度もこの大会を尾道市において10月8日に開催する予定でありましたが、台風18号の接近により開催することができませんでした。そこで、尾三地区の実行委員会の皆様方に変更日を検討していただきましたが各市町の行事等で都合がつきませんでした。誠に残念ではありますが、今年度の広島県公民館大会を中止することといたしました。

公民館等関係者の皆様方には、せっかくの研修の機会を提供できなくなりましたことに申し訳なく存じますが、なにとぞご理解いただきますようお願いいたします。

なお、このたびの大会の概要につきまして掲載しますのでご活用ください。

研修につきましては、先日ご案内していますように、平成21年度公民館等職員研修会が東部会場（福山市：11月17日）と西部会場（安芸高田市：11月26日）に開催しますので、皆様方の参加をお待ち申し上げます。

事務局 〒730-0052

広島市中区千田町三丁目7-47

県情報プラザ4F 広島県立生涯学習センター内

TEL・FAX (082) 249-0008

E-mail:hiroshima-kouminkan@coffee.ocn.ne.jp

# 講演

## 演題「生涯学習の動向とまちづくりの工夫」

### 生涯学習と地域づくりの工夫

立田慶裕

(国立教育政策研究所生涯学習政策研究部 総括研究官)

- I 教育のトレンド
- II 生涯学習のためのキー・コンピテンシー
- III 発達資産という視点で地域を見直す
- IV 人間力を引き出す地域づくりの工夫

#### I. 教育のトレンド

##### 1 知識(基盤)社会の生涯学習

農業社会 → 工業社会 → 情報社会 → 知識基盤社会

**知識基盤社会**：社会の多様な部門で種々の知識が重要な価値を持つようになる社会

既存の知識や技術の受動的な学習から、新たな知の生成が求められる時代

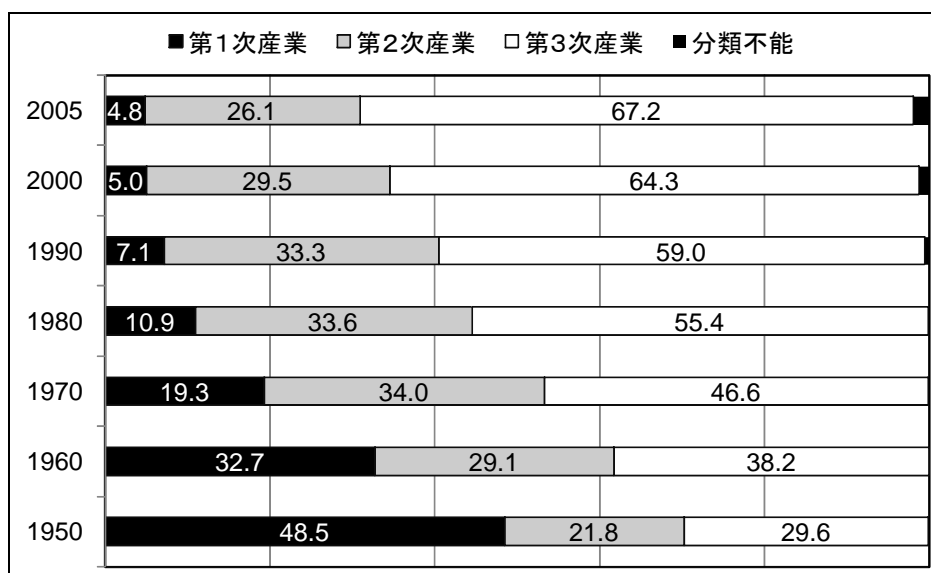
(発想、権力、政策、技術、資源、資本、商品、信念、学習力、生きる力等)

→ 参加型の「学習する組織」へ → 知識の共有と創意工夫

→ 学習の成果(知的な資源) → 参加型の学習へ



図1 日本の産業別人口構成の変化



## 2 人間力の国際標準化の動向

(1) 「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について」(中教審答申、平成20年)

### 1. 生涯学習の振興への要請－高まる必要性と重要性

#### ○総合的な「知」が求められる時代－社会の変化による要請

社会の変化に対応していくためには、自ら課題を見つけ考える力、柔軟な思考力、身に付けた知識や技能を活用して複雑な課題を解決する力及び他者との関係を築く力に加え、豊かな人間性等を含む総合的な「知」が必要となる。また、その他、自立した個人やコミュニティ(地域社会)の形成への要請、持続可能な社会の構築への要請等を踏まえ、生涯学習振興の必要性が高まっている。

### 2. 社会の変化や要請に対応するために必要な力

国民が生涯にわたって各個人のニーズに応じて学習を継続することができる環境を整備し、国民一人一人がこのような社会を生き抜いていくための総合的な力を身に付けることを支援する(「単なる知識や技能だけではなく、技能や態度を含む様々な心理的・社会的なリソースを活用して、特定の文脈の中で複雑な課題に対応することができる力」を「主要能力(キー・コンピテンシー)」として定義)

#### ○次代を担う子どもたちに必要な「生きる力」

子どもたちに必要とされる「生きる力」は学校教育のみならず、実社会における多様な体験等と相まって伸長していくもの。子どもたちが学校の内外で、その発達段階に応じて「生きる力」を育むことができるような環境づくりが求められている。

#### ○成人に必要な変化の激しい時代を生き抜くために必要な力

成人についても、変化の激しい社会を、自立した一人の人間として力強く生きていくための総合的な力を身に付けることができるよう、生涯にわたって学習を継続でき、その成果を適切に生かせる環境づくりが求められている。

(2) 人間力の国際標準化の中で ー大学生に求められる学士力

- 1) 職業的発達諸能力、基礎学力、人間力(文部科学省)
- 2) 社会人基礎力(経済産業省)
- 3) 就職基礎能力、人間力(厚生労働省)

文部科学省	厚生労働省	経済産業省
職業的発達諸能力	就職基礎能力	社会人基礎力
人間関係形成能力	コミュニケーション能力	前に踏み出す力 (アクション)
情報活用能力	職業人意識	考え抜く力 (シンキング)
将来設計能力	ビジネスマナー	チームで働く力 (チームワーク)
意思決定能力	資格取得	

#### 4) 学士力

平成 20 年 12 月に出された答申、「学士課程教育の構築に向けて」は、来年度より始まる大学教育改革に大きな影響をもたらすと予想される。とりわけ、生涯学習およびキー・コンピテンシーの調査研究との関連では、そこで示された「各専攻分野を通じて培う学士力～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～」が重要な意味を持つ。

※学士力：各専攻分野を通じて培う学士力

1. 知識・理解
2. 汎用的技能
3. 態度・志向性
4. 統合的な学習経験と創造的思考力

#### 5) 国際調査が求める力

①AHELO 調査（高等教育における学習成果の評価,Assessment of Higher Education Learning Outcomes)

4つの要素

Generic skills strand

Discipline strand

Value-added measurement strand

Contextual strand

②PIAAC 調査（国際成人力調査）

Prose literacy, Document literacy, Numeracy

Problem solving,

ICT literacy

## II. 生涯学習のためのキー・コンピテンシー：国際標準としての人間力

問題：私たちは、読み、書き、計算する力と共に、どんなコンピテンシーを身につければ、人生の成功や幸福を得ることができ、社会の挑戦に応えられるのか？

### 1 幸福な人生と社会的成功のために

(1) できる人の力をすべての人へ 【コンピテンスとは】

「学習への意欲や関心から行動や行為に至るまでの広く深い能力、人の根源的な特性」

- (2). コンピテンシーの基礎 【考える力】
- (3). 人生の成功とコンピテンシー 【幸福と成功をもたらす力とは】
- 1) 個人の健康と安全
  - 2) 人間関係
  - 3) 有利な就職と所得(の進学や就職、所得の向上)
  - 4) 政治への参加
- (4). 社会的発展とコンピテンシー 【持続可能な発展のために】:
- 1) 環境維持
  - 2) 経済的生産性
  - 3) 社会的まとまりや公正と人権
  - 4) 民主的プロセス

## 2 キー・コンピテンシーとは何か

特定の問題状況に対応するため、知識や技能、態度を含む多様な資源を活用し、動員して、複雑な需要やニーズに応える力

- 1) 人生の成功と正常に機能する社会を目標とする
- 2) 幅広い文脈で、重要・複雑な要求や課題に応える
- 3) すべての個人にとって重要

### ● 3つのコンピテンシー

A. 自律的に活動すること : 個人形成のコンピテンシー :

展望を広げる → 物語を考える → 自分を表現する

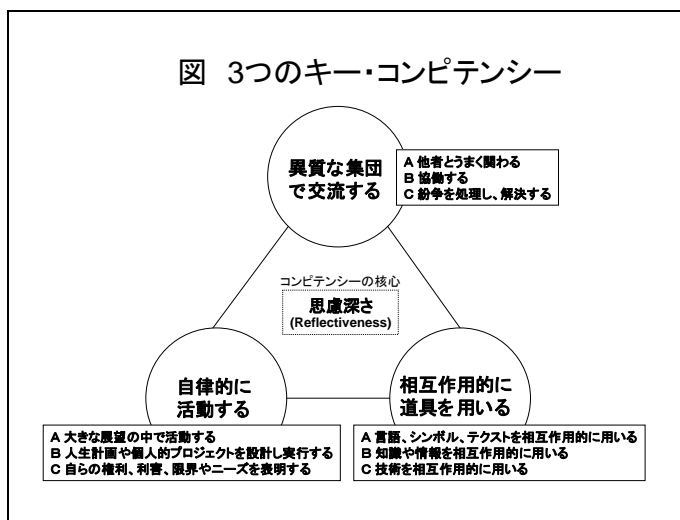
R. 社会的に異質な集団で交流すること : 人間関係のコンピテンシー

「社会集団に参加し、社会集団を形成し、社会集団の中で有能にふるまう能力」

いい関係を作る → 共に働く → 問題を解決する

T. 道具を相互作用的に用いること : 道具活用のコンピテンシー :

言葉や記号を覚える → 科学的な知識を持つ → 技術を活用する



### 3. キー・コンピテンシーの意義

- 1) 共通の基礎能力の向上（すべての人の能力向上）
- 2) 学習機会の補償（生涯学習の推進）
- 3) 社会の複雑化に応じた学習の変容
- 4) 学習成果の客観的測定

#### 4. 人間関係力の向上（関係形成、協働、問題解決）

必要な理由

- ①多面的社会の多様性に対応する
- ②思いやりの重要性
- ③社会関係資本の重要性

一人と共に生きることを学ぶ

##### R1 他者との良好な関係作り

keyword : ネットワーク、パートナーシップ、  
ケア、社会関係資本

ネットワークを作る：身近な人との関係を大切にす。  
近性の向上。

**care** 能力とコミュニケーション能力を育てる

##### R2 他者との協働

keyword : チームワーク、コラボレーション、協働、シ  
アリング、ケアリング、役割分担、交渉力  
アサーティブネス、ソフトスキルの学習

チームワークを行う。共に何かをする。いろいろなことに主体的に関わる。

**share** 遊び、仕事、対話、行動

##### R3 紛争の処理と解決

keyword : 紛争、解決、問題の分析と再構成、交渉力、合意形成、優先順序、配分  
社会的配分の問題 ○どちらも得になること（win-win の関係）  
交渉力の必要性 ○優先順位を立てる

**名前を覚える**

- 人の名前を覚える
- 人の存在を認める
- 積極的に覚える
- メモを残す(写真、名刺、会議録)
- 頻繁に相手の名前を呼ぶ
- フルネームで覚える

**共有する**

- 人には相違点と共通点がある
- 共通点を増やす→親近感を増す
- 話が通じやすくなる
- 仕事がしやすくなる
- 時間、空間、知識、技能、経験、、、の共有

親  
  
  
  
エ

### III. 発達資産という視点で地域を見直す

— 家庭・学校・地域で育む子どもとおとなの発達資産 —

図1 子どもとおとなの成長のために

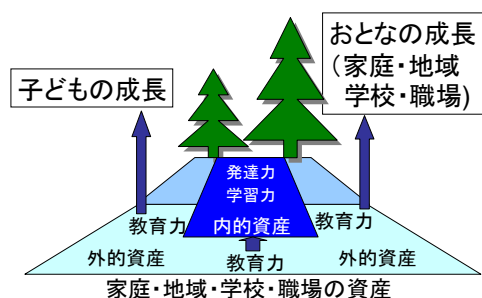
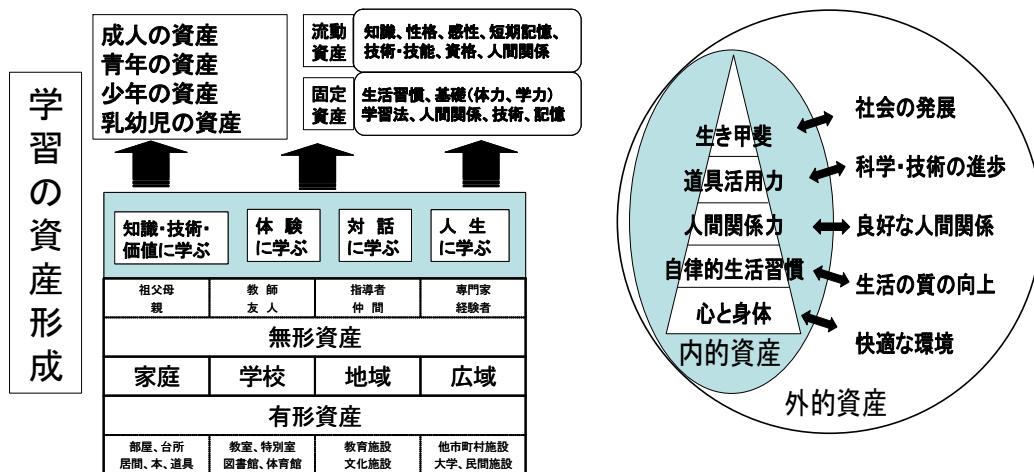


図 生涯学習のための発達資産



住民は、大切な命をもった人間です。その生きる権利と義務を保証すると同時に、住民は、生涯にわたってその心と体を発達させる大切な資産（地域の財産）ともいえます。住民の生涯学習の資産を発達させるためには、次のような資産がさらに重要となります。知ることを学ぶためには知識、技術や価値観が大切ですし、なすことを学ぶためには体験が、人と共に生きるためには対話が重要な意味をもちます。そして、人として生きるためには、一人一人の人生が重要な価値をもつのではないのでしょうか。一人一人が生きていく価値をもった存在であるからこそ、その資産価値をできる限り高めることによって、地域の資産価値もまた高まります。

地域では、人や町の無形資産としての面にも注目し、その資産価値を高めていくための生涯学習プランを作成します。小さな子ども時代には、生涯学習の基礎的な力を身につけるように図り、高齢者はその無形資産としての知恵をまちづくりのために活かしてもらうのです。地域、学校、家族の発達資産を増やすことによって、人々が学習しやすい環境の資産を確保し、個人個人の発達資産を増やすことが重要です。

#### IV 人間力を引き出す地域づくりの工夫

1. 学習する組織を作る ①学習マスター、②ビジョンの共有、③チーム学習
2. 人の役割を見直す：暗黙知(専門的知識と経験)を活用する
  - ①システム思考、②問題の発見、③主体的な関わり
3. 知識を創る学習法の工夫 —学習者の力を引き出す—

##### 1) 学習の文化を作る

学習者の考えを知る。恐怖心をとりのぞく。記録や数字により、アカウントビリティを高める（アカウントビリティ：説明可能性は、さまざまな経験を経て現実を受け入れ、その現実自分がどのように関わったかをはっきりと知ったとき、初めて持つことができる。記録が不可欠。たとえば、一週間の食事記録をつけてみて、自分の食生活が初めてわかる。自己承認と自己評価ができる。）

##### 2) 肯定的に考える：太陽と風と旅人。他者への敬意は、自分への敬意から始まる。

「グッド&ニュー」：この1週間であったよかった出来事を報告する。

うれしい出来事や体験を活力源にする。「3つの魅力」：他の人の魅力を3つあげる

##### 3) 考えるチャンスを作る

考えさせれば、邪魔をしない。安心感を与える。失敗から学ぶ機会を与える。

「シンク&リッスン」：一定時間、相手の事を聞く訓練—話を中断しない、聞き合いのゲーム

##### 4) 失敗を許す文化を作る

自分を信じる。支援チームを作る。失敗の恐怖を克服する。柔らかい頭を持つ。

達成できるゴールを具体的に設定。許せる範囲を置く。自分の達成度を自分で評価する。

「ボールの缶入れゲーム」：自分ができそうな距離からボールを缶に入れ評点するゲーム

##### 5) 助け合う仕組みを作る

同僚に感謝する練習をする。自分がしたいことをリストアップする。「私がしたいこと 20」

##### 6) 学習のパワーをつける

学習の壁 ①論理の壁：意味のないもの→なぜ知る必要があるかを知る  
②倫理の壁：道徳的に受け入れられないもの→学習者が大切に思うことを尊重する  
③気持ちの壁：置かれた状況が気持ちよくない時→恐怖心を取り除き、安心感を促進する。  
肯定的な人間関係、個人を尊重する → 自己有能感を生む学習  
生活の中の理想的な学習 → 生活の実践につながる学習  
学習者から、リーダーの経験へ：教えることは、学ぶこと

7) **ビジョンを表す**：ビジョンを図や言葉で表す：自分で体験する方法。理解する、わかりやすくする。

#### 8) **人をつなぐ**

家族は、一人が病気になると、全員の負担が大変になる。自分が関わっているシステムを説明するアクティビティ。  
部分と全体のつながりやルール、対話、フィードバックのありようを振り返る

#### 9) **ドラマを始めよう！**

仕事を楽しくする演出。役割の配分。せりふの工夫。パフォーマンスの工夫。アドリブを入れる。

### (4) **ボランティアなどによる参加型学習の機会拡大**

#### 1) **ボランティア活動に参加して学べる機会を提供する**

#### 2) **ネットワーク（新しいつながり）を作る**

- ・「くさび」の人（「ハブ」車輪の真ん中）の重要性
- ・人間関係は資産となる。情報やアイデア、方向性、富、権力、影響力、チャンス、精神的なサポート、善意、信頼、協力などが得られる
- ・人間関係作りを、自分の直接的な利益を目的とせず行うことが大事で、「見返りを求めずに他人に貢献し、周囲の人々と信頼関係を構築することが、ビジネス、健康、生活に効果をもたらし、間接的に人生を豊かにする」

### (5) **アクション・プランの作成支援**

#### 例1 **【私の生涯学習プラン】**

1日の習慣 20分の読書 3食のバランス、40分の運動 5人と対話、6時間の睡眠

#### 例2 **【人間関係力を高める】**

1. ヒューマンモーメント（直接的な出会い。注意を向けた人間的な対話）を大切に
2. 1週間に1度は、以前の友人と連絡を取る
3. 積極的に人を紹介する
4. 情報を共有する
5. 返事は遅れず出す
6. 会合に遅れない
7. 団体の会合にはできるだけ出席する
8. 感謝の手紙を出す
9. 食事の約束を守る
10. 出会いの記録を残す

#### 【参考文献】

- (1) 赤尾勝巳・山本慶裕編『学びのスタイル』玉川大学出版部、1996
- (2) 川野辺敏・立田慶裕編『生涯学習論』福村出版、1999
- (3) P. クライン、B. サンダース『こうすれば組織は変えられる-「学習する組織」をつくる10ステップ・トレーニング』今泉敦子訳、フォレスト出版、2002
- (4) 小宮山博仁・立田慶裕編『人生を変える生涯学習の力』新評論、2004
- (5) 赤尾勝己編『生涯学習理論を学ぶ人のために』世界思想社、2004
- (6) D. ライチェン他編『キー・コンピテンシー-国際標準の学力をめざして』立田慶裕監訳、



明石書店, 2006

- (7) OECD CERI 編(未来の教育改革)『教育のシナリオー未来思考による新たな学校像』立田慶裕監訳、明石書店, 2006
- (8) 立田慶裕・岩槻知也編『家庭・学校・社会で育む発達資産ー生涯学習の新しい視点』北大路書房, 2007

# 実践発表

## 実践発表①

テーマ

「大見自治センターにおける地域活性化への取り組み」

発表者

世羅町大見自治センター 自治センター長 西 川 康 人

- 1 はじめに
- 2 自治センター化に伴う準備
- 3 自治センターの位置づけ
- 4 振興協議会の組織構成
- 5 「地域づくりビジョン」の作成
- 6 活動実践の状況
- 7 センター化のメリットとデメリット
- 8 終わりに

## 実践発表②

テーマ

「地域活動の拠点としての公民館」

発表者

竹原市立大井公民館 館長 溝 手 隆 章

- 1 私達の住んでる町(地域の現況)
  - 1)大井地区のようす
  - 2)大井公民館の概要
  
- 2 公民館は喫茶店、サロンと云われてもー公民館は地域の情報受信基地
  
- 3 公民館は問題解決の拠点  
公民館で新しく取り組んだ具体例10
  - 1)ポイ捨てしなくなった公民館だより
  - 2)追突事故多発を無くした信号機設置
  - 3)子どもが立ち寄る公民館
  - 4)介護保険を使わない為の健康教室
  - 5)地区の皆の力でグランド芝生化
  - 6)公民館まつりは地区の春まつり
  - 7)地元の隠れた芸術家の採掘と発表の場作り
  - 8)中年の山歩き“歩こう会”立ち上げ
  - 9)協働のまちづくり立ち上げ
  - 10)大池“天池の浚渫”
  
- 4 今後の課題と問題点